

## 実践発表①

### 中村学園大学付属あさひ幼稚園

#### 「心身の鍛錬と規範意識・関係形成力が育つ自然体験宿泊活動」

##### 1) 取り組み目的・ねらい

日常の園生活でも、子供達の心身の成長や規範意識等は育つ。しかし、日常の生活に変化を与え、平素では体験できないようなことを意図的に仕組めばどうなるか。そこで年長組は、7月末に1泊2日の自然体験宿泊活動を実施した。これは本園の教育理念「強い子・やさしい子・考える子」の具現化を目的とし、「自分のことは自分です」「友達と力を合わせる」「問題を工夫し解決する」を体験的に学ぶためである。



##### 2) 取り組みの具体的な内容

活動を仕組むにあたり、「空間、時間、仲間」に拘り、子どもと作り、保護者に呼びかけ、学生に協力を仰ぎながら「出会うー広げるー深めるー振り返る」の活動とした。

##### 3) 目的を実践するために工夫した技術や方法

「出会うー広げる」では、事前活動に子供達も関わらせ、自分たちの、自分たちで考えた、大切な1泊2日になるよう話し合いをした。「深める」の具体的な活動では、小川での生き物探しや岩登り、飛び降り、園での夕食づくりやキャンプファイヤー等をした。「振り返る」では、2日間の活動写真を親子で見た。

##### 4) 指導者または指導チームの特性や編成に留意したところ

配慮を要する子もいるので、加配と余裕ある職員体制とした。園外活動では、多様さや、力強さが求められるため、万が一の対応も考慮し、父親の参加もお願いした。また、大学付属として学生への参加もよびかけ、教育実習後の学びと発展を期待した。

##### 5) 子どもに見られた変化や成果

これら一連の活動は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性と規範意識の芽生え」等の育ちとなった。また、夏休みの体験的な学びの動機付けにもなった。

##### 6) 今後の展望や新たな目標

今後は、今回の体験や学びが点で終わらないよう、つながりを持たせ、発展するような計画とし、子供たちの知的好奇心を広げ、深めていきたいと思う。



#### 選考委員からのコメント

「宝島の風土」の社会病理は母子分離が難しいことです。「親離れ」も「子離れ」も難しい。この時代に敗れて、子どもを親から離すプログラムを導入するという発想が素晴らしい。スタッフの間も並大抵ではなく、なかなかできないことである。活動の流れを読むと、入念な準備をして、自然体験活動をしていることがうかがえた。2日目の「振り返り」スライドショーは、ますます便利になっていく時代を反映しており、興味深かった。大学の付属ではあるが、学生をきちんと取り込んでいるところも良かった。活動内容はカレーライス、キャンプファイヤーと定番であり、今後活動内容を工夫してみるのもいいかもしれない。今後の活動に期待したい。

## 実践発表②

### International Mother's Circle Mimosa

#### 「外国人の親子と一緒に子育てを楽しむ環境作り」

##### 1) 取り組みの目的・ねらい

日本人と外国人の母親たちとの交流の場を提供し、乳幼児時期に孤立しがちな母親や外国人の生活や子育てをサポートをする。乳幼児期から色々な国の人と交流することで肌の色や言葉の違いからくる偏見をなくし、いじめのない集団生活できる子に育てる。また、母親に講師として参加してもらうことで社会活動の機会を与え、自信につなげてもらう。

##### 2) 取り組みの具体的な内容

1. メンバーがMom teacher（講師）として、得意分野で出身国の文化紹介をする。
2. 多言語で絵本の読み聞かせを実施  
言葉の響き、絵のテイスト、文化を話の中からも感じてもらう。



##### 3) 目的を実践するために工夫した技術や方法

1. メンバースカードの活用  
参加費に応じたポイントの付与、ミモザ運営サポートにもポイントを加算
2. 出会った先生にメッセージを外国語で書いてもらう
3. ハイタッチの挨拶をすることで緊張感を和らげ、距離を縮める。
- 4) 指導者または指導チームの特性や編成に留意したところ  
全員で子供の見守りをする事で、講師も子供と同伴で来れるように環境を整えた。指導中は、日本語と英語両方で説明補助をする。
- 5) 子どもに見られた変化や成果  
対外国人にたいして距離感が近くなり、幼稚園以外での交友関係が広がった。



##### 6) 今後の展望や新たな目標

- 外国人子育て世帯へのアプローチと、活動場所を地域密着でやりたい。
- 子ども達がコミュニケーションをとる楽しさを体験できるような交流の機会を作っていきたい。

#### 選考委員からのコメント

グローバル社会を迎え、訪日外国人が2400万人を超える現況を考えると、外国人の親子と一緒に子育てを楽しむ環境作りはユニークな取り組みといえる。外国人家族の孤立防止と地域への順化が期待できる。このような取り組みを発案されたことが意義深い。言葉や肌の色が違う人々がいることを幼いころに知ることが大いに評価できる。外国人の母親にも教師を依頼している点も興味深い。まだ組織化が十分ではないが、今後各地域の需要を汲み上げ、活動を拡充し、これをモデルに同様のグループができ、お互いに交流が始まることを期待したい。現在、楽しく交流することに主軸が置かれているように思えるが、今後幼児教育という視点も取り入れ、組織化していけるかが課題だろう。継続性を求めて取り組んで欲しい。

## 実践発表③

### 社会福祉法人 羽衣会 しかた保育園

「体を使ったあそびから合奏指導への展開 ～想像の翼を広げよう～」

#### 1) 取り組みの目的・ねらい

子育てにメディアが活用されているとのアンケート結果に驚き、子どもたちは一方的に受け取る刺激を「あそび」と認識しているのではないかと感じ、改めて保育園での「あそび」の重要性を感じた。

- ・友達と関わる中で、相手の気持ちに気付いたり自分の気持ちを伝えたりする。
- ・感じたことや考えたことを自由に表現し、イメージを共有して楽しむ。
- ・しなやかな体をつくる。 ・皆で楽しむためにルールがあることを知る。

#### 2) 取り組みの具体的な内容

- ・体を使った遊びの実践（昔ながらのあそび・リズム遊び・表現あそびなど）
- ・「ジャングル探検」などの表現あそびの深まり。
- ・運動会では異年齢合同でアフリカの情景を表現した。
- ・遊戯会で「アフリカン・シンフォニー」を演奏した。



#### 3) 目的を实践するために工夫した技術や方法

- ・相撲大会ではトーナメント表を作り本格的に取り組んだ。
- ・トラブルの際には、子どもたち自身で解決策にたどり着けるように導いた。
- ・合奏指導では、曲の構成や世界観を共有してから楽器指導を行なった。

#### 4) 指導者または指導チームの特性や編成に留意したところ

- ・発達に遅れのある子どもも楽しめるように、指導は2人体制で行いフォローした。
- ・週に1度縦割り保育の日を設け、異年齢交流によって思いやりの気持ちを育てた。

#### 5) 子どもに見られた変化や成果

- ・勝負のあるあそびを経験することで、気持ちを切り替えたり、友達を慰める姿が見られるようになった。
- ・思いを伝えあいながら、皆で考え、答えを出すことが増えた。
- ・遊びを通して、得意不得意分野を自然に感じ取り、認め合うようになった。



#### 6) 今後の展望や新たな目標

- ・体をつかった遊びを存分に行い、心と体のバランスを整えていく。
- ・絵本の読み語りや自然に触れる経験を大切にしてお遊びにつなげる。

#### 選考委員からのコメント

育児をスマートフォンに任せ親が増えている現状を鑑みると、親子へのアンケート調査から保育園での「あそび」の重要性を認識され、体や楽曲を活用した保育の取り組みについて評価したい。指導案もしっかり作成されていた。また、異年齢での縦割り保育により、年長者がリーダーになり、「あそび」の提案や散歩の引率などを体験できることは、長幼の序や心理的距離感の醸成に資するものであろう。さらに、発達に遅れのある子供たちにとっても十分な配慮がなされており、今後の子どもたちの成長に希望が持てる。今後の活動に期待したい。

## 実践発表④

### 自主保育 おひさま遊ぼう会

「子どもの力を信じて見守る 子どもも親も鍛える自主保育」

#### 1) 取組み目的・ねらい

子ども同士の遊びの場面に大人が介入する姿が多く見受けられる昨今、私たちは、子どもが困難や課題に直面した時、大人がすぐに手を貸すのではなく、子ども同士で乗り越えることを目指しています。

#### 2) 取り組みの具体的な内容

私たちは、親や保育協力が者が交替で子どもを預かり、野外で子ども達を保育する団体です。日々の活動の中で、喧嘩や仲間はずれになる事もありますが、基本的に親も当番も介入しません。私たちは遠くから見守ることに徹します。

#### 3) 目的を实践するために工夫した技術や方法

私達がどんな場面でもどっしり構えて見守りに徹するには、その覚悟と信頼関係が必要です。それらを築くため、毎日ミーティングを行い、今日の活動での出来事や感じた事、考えた事を伝え合います。いい事だけでなく、不安に思った事や嫌だなと感じた事も全て共有します。また、月に一度の定例会で子ども一人ひとりの成長や課題について、親と保育協力者全員でじっくり話す機会を設けています。



#### 4) 指導者または指導チームの特性や編成に留意したところ

自主保育の最大の特徴は、親がダイレクトに保育に参加する事です。それにより見守る事に徹する事ができ、家庭でのフォローもリアルタイムで可能になります。また、保育協力者の存在も重要で、第三者の立場から冷静にアドバイスをもらうことで見守りの覚悟と姿勢がぶれることなく活動できています。

#### 5) 子どもに見られた変化や成果

男の子が苦手でちょっとしたいはずらや意地悪にすぐ泣いてしまうSちゃん。活動を通し、自分の意志を伝えたり、一緒に遊ぶ方法を見つけ、時には一人になる勇気を身に付けました。このように一人ひとり、自分なりの友達との関わり方、喧嘩や仲直りの仕方などを身に付け、集団の中で自分を出せる方法を習得しています。



#### 6) 今後の展望や新たな目標

自主保育おひさま遊ぼう会の活動を絶やさず、今後も子ども自身の持つ力を信じ見守り続けていくことを目指します。また、様々な困り感を持つ親子の助けとなればと思います。

#### 選考委員からのコメント

地域のつながりがなくなりつつある現在、父母らが協力して、保育に取り組んでいるのはユニークな試みといえる。一般の「保育」とは発想が違う。親が保育できないから預けるのが基本だが、親がみるという発想が素晴らしい。父母らが仕事を抱えていることを考えると、0～2歳児が週3回、3～6歳児が週4～5回という活動回数には驚く。メンバーが入れ替わりながら、つながっていることがすごい。地域で育てることで、孤立もしない。モデリングもでき、心強い取組みである。是非今後も活動を続けて欲しい。